

北杜市地域福祉計画第2回策定委員会議事録

(1) 会議名

北杜市地域福祉計画第2回策定委員会

(2) 開催日時

平成23年10月11日(火)

午後1時30分～午後3時30分

(3) 開催場所

本庁3階大会議室

(4) 出席者(委員10名、事務局10名 計20名)

委員：長田委員長、齊木委員、齊藤委員、取屋委員、長坂委員、仲田委員
深澤委員、原委員、谷戸委員、吉田副委員長

事務局：原福祉部長、米田福祉課長、織田福祉課長補佐、福祉課福祉担当伴野リーダー、福祉課福祉担当木次、浅川子育て支援課長、山田健康増進課長
唐木介護支援課長、地域包括支援センター中嶋指導監、(株)ジャパンインターナショナル総合研究所佐藤

(5) 議題

- ① 「第2次北杜市地域福祉計画策定のためのアンケート調査」単純集計結果のまとめについて
- ② 第1次北杜市地域福祉計画実施状況まとめ(庁内ヒアリングの結果)について
- ③ 第2次北杜市地域福祉計画骨子案について
- ④ 「一人暮らし高齢者等の生活アンケート」の結果について
- ⑤ 福祉団体ヒアリングの実施について

(6) 公開・非公開の理由

公開

(7) 傍聴人の数

1名

(8) 審議内容

1 開会のことば

(課長)

2 福祉部長あいさつ

(福祉部長)

3 議事

(議長) 議事に入る前に、議事録署名人の指名をさせていただきたい。前回配布した名簿順で、今回は、取屋委員、長坂委員にお願いしたい。

① 「第2次北杜市地域福祉計画策定のためのアンケート調査」単純集計結果のまとめについて

(事務局) アンケート調査結果を説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 問3で、白州町の割合が高いが、実際の人口の割合に合っていないのでは。アンケート送付者は、全くの無作為で抽出したのか。

(事務局) 8地区から各250名を無作為で抽出した。

(委員) 暮らしやすさの問いの中で、「やや不満・不満」の回答が多い項目や、制度等の認知度についての問いの中で、「知らない」の回答が多い制度等については、次期計画に反映させる必要があり、重要な課題である。

(事務局) アンケートの中で不満が多い事項は、次期計画の重点課題として検討したい。

また、認知度が低い制度等は、今後、積極的に周知に努めていきたい。

最終的に、アンケート調査報告書をまとめるので、そこで、年代別、地区別等の詳細な状況を出して、しっかりと次期計画に結び付けていきたい。

(委員) アンケート調査結果については、よくわかった。「資料1」の中の大項目はどこから引用しているのか。

(事務局) アンケート調査の中の項目を、そのまま使用している。

② 第1次北杜市地域福祉計画実施状況まとめ(庁内ヒアリングの結果)について

(事務局) 庁内ヒアリング結果を説明する。

・現行計画での市の取り組みについて、関係課へ、事業内容、実施状況等をヒアリングを行った。

・「実施状況」欄は、できなかった事項、課題、新規取り組み等が記載してある。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 関係課へヒアリングをしたということだが、聞くことだけにとどまらず、今後、庁内で横の連携をとるような考えはあるのか。

(事務局) 本日の議論で、計画の骨格が決まる。素案を作るまでに、関係課により検討会を開催したい。計画策定後も、連携がとればよいと考えている。

(委員) 資料のまとめ方について、「実施状況」欄に、雑多に記載されているため、何が課題なのかわかりづらい。また、アンケートについて、町ごとに、人口比率、年齢比率に応じて、発送すればよかったのではないかと。また、問17で、地区活動とは、どの範囲での活動を指しているのかわからない。

(事務局) アンケートについては、既にとりまとめの段階であり、この結果を使用していく。今後、クロス集計を行い、報告書を取りまとめる予定。その中で地区毎の詳細な状況を把握することができる。

(委員) 「資料2」の中の「中学生ボランティアの育成及び意識啓発」とは、どのような内容の事業か。

(事務局) 一つは、「ボランティア活動普及校事業」であり、市内小中高24校を対象に活動費を助成している。もう一つは、「ボランティア体験学習会」であり、子供たちが、長期休暇を利用し、福祉施設においてボランティア体験をしている。いずれも、市が社会福祉協議会へ補助金を助成し、社会福祉協議会が行っている。

(委員)「資料2」について、たくさんの計画がもりこまれており、担当部署名の記載がなく、わかりづらいので、次期計画は、担当部署名を明記したらどうか。また、全ての事項について取り組めれば理想的だが、優先順位をつけて、取り組んでいったらどうか。

(事務局) 第1次計画の中の、市の取り組みについて、担当部署の割り振りが明確にされていなかったのがそもそもの原因であると考えますが、責任の所在を明確にするため、次期計画については、担当部署名を明記することも一つの案として、庁内で検討したい。また、限られた人員、予算であるため、重要分野を設定したい。

(委員) 本計画での策定事項は、総合計画に入ってくるのか。また、総合計画の関係で、プライオリティーをつけるよう担当部署に指示をしたので、参考にしてほしい。

(事務局) 計画期間は、総合計画と同じあり、内容は全く同じではないが、本計画の内容も入る。齟齬のないよう調整したい。

(委員) 包括支援センターから職員が、地区の民生委員の定例会に毎回出席いただいていることは、ありがたい。認知症サポーター養成講座も、ほとんどの民生委員が受講したが、次の段階としてのアドバイスをいただきたい。

(事務局) 研修後、認知症に関する相談件数が増えている。定例会には引き続き参加させていただきたい。

③ 第2次北杜市地域福祉計画骨子案について

(事務局) 地域福祉計画骨子案について説明する。

- ・今回、第1章から第2章4項までを、第3回策定委員会では、第1章5項から第4章までを、第4回策定委員会では、全てについて議論していただきたい。
- ・二つの柱を提案したい。一つは、「地域福祉意識が浸透し、地域福祉活動が活発なまち」、もう一つは、「誰もが安心して生活できるまち」である。
- ・ヒアリング結果を踏まえ、担当部署を明確にし、実践的なものにした。
- ・アンケート結果、策定委員会での意見を踏まえ、重点項目を設定したい。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 第2次計画(案)の中に、地域福祉の担い手作りを進めるとあるが、自身の地区でも難しい問題であるが、市ではどのように進めているのか。

(事務局) 現在、市では行っていない。今後、ボランティアのリーダー養成講習といったものを実施する必要があると考えている。

(委員) 情報提供を進めるという観点から、資料編の中に、各種相談窓口の連絡先一覧を掲載したらどうか。また、計画書は全戸配布されるのか。

(事務局) 連絡先一覧の掲載については、検討したい。また、全戸配布する予定はないが、何らかの形で広く周知したい。

(委員) 連絡先一覧に関係して、困りごとの内容に応じたフローチャートを作成したらいかかが。また、本委員会は、策定が終われば解散となると思うが、せっかくなので、策定後も、関わりを持ち続けて、活用していただきたい。

(事務局) ありがたいご意見。お願いできるようにしたい。

(委員) 文言について、アンケート中の「暮らしやすさ」から「安心」という表現に、「相談できる体制」から「相談しやすい体制」という表現に変えた理由は。また、「1) 防犯・防災体制を整える」と、「4) 必要な住民に必要なサービスを提供する」の関係は。

(事務局) 現行計画においても、「安心」という文言が多数出てきており、「暮らしやすさ」よりも「安心」を強調した方がよいと考えた。「相談しやすい体制」について、市としては、誰でも相談したいときに相談できるような体制を整備したいと考えている。1) は、地域防災の重要性、4) は、個別計画のサービスのことと、情報が行き届かず、必要なのにサービスを受けていない方の問題を記載していきたいと考えている。

(委員) 東日本大震災の関係で、国は防災対策の強化をしている。過日の新聞記事において、県下自治体におけるハザードマップの作成状況が掲載されたが、市の対応は。また、決められた期限内に作成していただきたい。

(事務局) 地域課と協議し、方針を決めたい。

(委員) 情報を受け取る側の方策について、考えはあるか。

(事務局) 市民の側の意識を引き起こすような取り組みを、考えていく必要がある。

(委員) 地域福祉を進めるうえで重要な視点として、「自助・共助・公助」の考え方があがるが、自助の気持ちをどう育てるかという問題がある。現状、自治会の加入がうまくいっていないと思われる。地域の人達とともに考えていく姿勢が大切である。行政でも、転入手続きの際には、地域の大切さを話してもらおうなど、具体的な方策を考える必要があるのでは。

(事務局) 御指摘の点は、庁内会議において検討し、計画に盛り込むようにしたい。

④ 「一人暮らし高齢者等の生活アンケート」の結果について

(事務局) アンケートの結果について説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 返答がなかった方への対応は。また、移動販売について、利用者が30%ほどいるが、需要があれば、受け皿として、NPO 法人、企業等に呼びかける必要があるのではないか。

(事務局) 未回答者については、包括支援センターと連携し、戸別訪問を進めているところ。また、昨年話題になった100歳以上の方の安否確認については、昨年の時点

で、全て確認をしている。

(委員) 成年後見制度を利用している方はいるのか。

(事務局) サービスを受けるため、利用している方もいる。また、金銭面の管理ができないため、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を利用している方もいる。

(委員) はつらつシルバー事業に関して、参加者は固定化されてきているが、多くの高齢者に参加してもらうための有効な方策はあるか。

(事務局) 強引なお誘いはできない。一人暮らし高齢者は、不安・寂しいと感じており、参加はしなくても、声かけはしてもらうようお願いしている。現状、有効な方策はないが、今後、自分から積極的に参加するような、高齢者の意識づくりも必要と思われる。

⑤ 福祉団体ヒアリングの実施について

(事務局) 福祉団体ヒアリングの実施について説明する。

(議長) 質問、意見等があるか。

(委員) 問9で、課題を聞き取っているが、これと併せて、解決策をどう考えているかヒアリングしてほしい。

(事務局) そのようなヒアリングを実施したい。

(委員) 地域で御活躍の団体に、ヒアリングするのは有意義なことである。明野地区での、子育て支援センター、集いの広場の設置等について、市の考えは。

(事務局) 各地区できめ細やかな対応が必要であると考え、公共施設の統廃合等の問題もあり、検討していかなければならないと考えている。

以上